



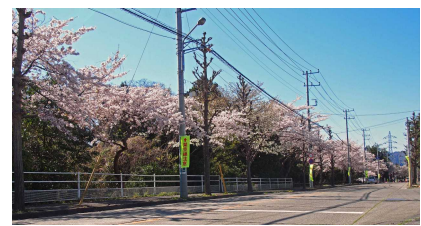
学区内におよそ 430 本のサクラがあり、市内で唯一「桜」の名を町名にしている桜川町、愛称道路のさくら通りなどが示すように**市内屈指の「桜地帯」**といわれています。中でも、日立市のサクラの名所 25 箇所（HITACHI CITY PROMOTION 「ひたち風」）のうち、次の 3 箇所が学区内にあります。



多賀中学校



桜川緑地



さくら通り

❖ 多賀中学校のサクラ（油縄子小学校～多賀中学校～多賀高等学校）

隣接する油縄子小学校から多賀中学校までの校地の東側、そしてその東側の多賀高等学校まで美しく続く桜並木です。これらのサクラは、学校敷地と道路を仕切る生け垣のような役割を果たしています。それぞれの小中高校に通う子供達はもちろん地域の人々にも親しまれている桜並木です。1995 年（平成 7 年）に中学校の保護者や花樹の会などの一般の市民の手によって、**テングス病にかかった枝の除去が初めて行われた記念すべきサクラ**でもあります。地域の人々の手によって守られたサクラは、その後樹勢を回復して美しい花を咲かせています。

❖ 桜川緑地のサクラ

桜川緑地のサクラは国道 6 号西側から上流の樋口橋付近（諏訪学区・大久保学区）まで桜川の両側に続く桜並木です。桜川の河川用地は、1980 年（昭和 55 年）前後に改修が進められ、川の両側に帯状に残された土地は 1983 ～ 87 年（昭和 58 ～ 62 年）に近隣公園の緑地帯として整備されました。これが桜川緑地です。緑地は、遊具や遊歩道が整備されており、市民の憩いの場となっています。ここには現在、**約150本のサクラが並んでいて見応え**があります。いちばんの見所はみざくら橋東側の「花見広場」とその西側の「中央広場」から上孫橋にかけての桜並木です。ソメイヨシノが主ですが、その他のサクラも混じっています。これらのサクラは樹勢が良く幹も太くて立派です。また、散った花びらが桜川の水面に浮かび文字通り桜川となるのも知る人ぞ知る魅力です。

❖ さくら通りのサクラ

日立グローバルライフソリューションズ多賀事業所(旧 日立製作所多賀工場 工場は河原子学区)の北側、桜川沿いに国道 245 号との交差点を経て旧日立電鉄桜川駅付近まで続く桜並木です。1939 年(昭和 14 年)に多賀工場が創業された際、その周辺整備で数多くのソメイヨシノを孫沢川の河谷周辺や常磐線に沿った敷地内に植栽したのが始まりで、現在の立派なサクラに成長しています。これがその後、孫沢川が公的に「桜川」の名となったり、「桜川町」「さくら通り」の名称になったりしていきました。サクラの咲いている時期は、夕刻ライトアップし、見る人を和ませてくれます。(現在は中止)

また、さくら通りの南北の歩道沿いは、イチョウ並木になっており、秋には美しい黄色の葉をつけ春のサクラとともに人々を楽しませてくる街路樹です。

❖ 街 路 樹 ❖



ケヤキ並木と諏訪かおる幼稚園

前記の多賀中学校やさくら通りのサクラ並木やさくら通りのイチョウ並木の他に、油縄子学区には美しい街路樹があります。中でも、国道6号の両側には、諏訪十文字を起点に下宿十文字(大久保学区)まで続く大きなケヤキ並木が続いています。隣接する諏訪かおる幼稚園の園歌にも「けやきのこもれびきらきらと・・・」と歌われています。また、諏訪五差路から鮎川一郵便局までの大学通りには、シヤラの木 of 街路樹があります。

地域が選んだ「わがまちの桜23選」

～ 油縄子学区のシンボルのサクラ ～

(日立市さくらのまちづくり推進市民会議選出)



正門南側にあるヤエベニシダレは、ソメイヨシノの後に花を見ることのできる貴重なサクラで、市道沿いに見られるので、地域の人々を楽しませてくれています。

開花期は、4月中旬から下旬です。学校の敷地内で観賞する際は、必ず職員室にお声掛けください。

ヤエベニシダレ

